

令和 7 年度 第 1 回燕市総合計画審議会 議事録

日 時	令和 7 年 7 月 14 日（月）午後 1 時 30 分から 2 時 40 分
場 所	燕市役所 委員会室
欠 席	佐藤直明委員、田野隆夫委員、上田佳澄委員

1. 開会

2. 委嘱状の交付

3. 市長あいさつ

4. 委員の紹介

5. 会長、副会長の選出

- ・事務局案として、新潟大学副学長の宍戸委員を会長に、新潟工科大学教授の樋口委員を副会長に推薦
- ・委員から異議はなく、拍手を持って承認された。

6. 協議題

(1) 第 3 次燕市総合計画の施策別指標の進捗について

（事務局より、資料 1 「第 3 次総合計画 施策別指標達成状況一覧表」の説明）

<会 長>

ただいま事務局から、資料 1 に関する説明がございました。事前に、委員の皆様のお手元に届いているかと思いますが、何かお気づきの点などありましたら、ご質問あるいはご意見などいただきたいと思います。

<副会長>

15 ページ目に、地域に根づく移住定住の促進という項目がございます。

県内他市では一生懸命頑張っているにもかかわらず、成果が上がらないのですが、燕市は、基準値が 158 人に対して、令和 6 年度で既に 424 人とすばらしい成果を上げておられます。何か燕市独自の取組があるのかご紹介いただけたらと思います。

<事務局>

燕市は他市と比べますと、国や県との連携も含めて、おそらく県内でもかなり幅広く移住関係のメニューを揃えている市だと思っています。国や県からの財源を活用してできるような事業でも、実施をしてない市町村もありますし、何らかの独自の制限をつけて実施するところも結構ありますが、燕市は比較的实施しています。

<副会長>

ありがとうございます。幅広いご支援をされているということは分かりました。ですが他市では移住はされても、残念ながら地域になじめずに、数年経ったらやっぱり戻られるような方も多いのですが、燕市の定着率はどのようになっていますか。

<事務局>

実績として全てを把握しているわけではないですが、燕市では移住者に2年間の家賃補助を行っており、その2年間の家賃補助が終わった時に、今後も燕市に住み続けますかどうかというアンケートをとっておりまして、8割以上が、燕市に住み続けますという回答をいただいております。

また資料にもありますが、移住者向けの交流会も毎月やっており、大体毎回参加者が10人から20人程度ではありますが、燕市のいろんなところを見て回るようなこともやっていますし、町の人たちと協力をしながら受入れを続けている状況です。

<副会長>

詳しいご説明どうもありがとうございました。

たくさんの方が来られて定着されるというのが、この人口減少を軽減するとても大きな政策だと思いますので、引き続きこの政策をプッシュしていただければと思います。

<会 長>

確かにこの成果指標が二重丸で良かったで終わらすのではなく、なぜ上手くいったのか、他の自治体と比べてどこがポイントだったのかということを検証することで、ほかの施策にも活用できると思いますので、引き続きご尽力のほどよろしくお願いします。

<委 員>

先ほど冒頭の説明で、46項目が中間目標値を超えているということで、いい成果だと思うのですが、市民アンケートのように毎年の評価が変わる項目は別として、今の移住者数など、もう既に最終目標値を超えている項目もあります。これは例えば来年の中間で見直したりするのでしょうか。それとも最後までこの数値でいくのでしょうか。

<事務局>

指標につきまして、好調な指標は数多くあるわけでありましたが、総合計画は8年計画としておりまして、中間年に見直しをさせていただく予定です。その際に、こういった好調な指標については、もう少し上を目指して、目標を立てようというふうに思っております。

<委 員>

毎回同じようなところばかり質問して誠に恐縮なのですが、7ページの教育の推進・子育て支援のところ、特に教育の充実のところです。

ここを見ると、小学生の段階では県のレベル、国のレベルと比べても非常に頑張っている、成果があるように思うのですが、中学生になると途端に残念ながらという話になって、前回も確かそういう話だったと思います。

1番下の要因分析・説明のところにありますが、小学生から中学生へ学年が上がるにつれて偏差値平均が下がる傾向にあって、授業についていけない生徒が多いことが考えられると。なぜこんなのかとか、深掘り、分析をして、どのような対策を立てておられるのか、実行されておられるのか教えていただけますか。

<事務局>

ご指摘のとおり、小学生から中学生と学年が上がるにつれて、偏差値平均が下がる傾向に現在もあります。

その点につきましては、各学年の使用している教科書などを読んでいただくと、非常によく分かるのですが、学習言語、用語といったものが、学年が上がるにつれて非常に難しい言葉が用いられたりする傾向にあります。

そうしたところに対応し切れず、なかなか授業についていけないというような、児童生徒

が出てきているのではないかというふうに考えております。

そこで、現在授業に関しては、授業改善を図るために、指導主事が各学校を巡回し、指導しているところであります。特に、教科書に使われている学習言語について、しっかりと事前に教師が教材研究をして、どの言葉でつまづくかといったところを予想しながら、授業を組み立てていくといったところを重視して、現在、授業改善に取り組んでいるところです。

<委 員>

学習言語云々の話ですが、それは燕市だけの特徴的な問題ではないと思います。全国的に同じような、そういう言語を用いて指導しているはずですが、つまり、言い方悪いですけど教える側の問題だというふうに受け取らざるを得ないと思うのですが、その辺はどのような受け止め方をされてますでしょうか。

<事務局>

全くそのとおりでございます。教える側に問題があるというふうに認識をしておりますので、ではどのようにして、学習言語をしっかりと読み取って授業が分かる子どもを育てていくかというところにつきましては、より具体的に授業改善を進めていく必要があるというふうに考えております。

<委 員>

具体的に授業改善を進めていくっていう部分で、何か対策を立てているのであれば、ここで教えていただけますか。

<事務局>

指導主事が各学校を訪問して、授業を観察し、その授業の進め方について指導を行っているところでありますが、それ以外にも先生方を対象にした研修も、新たに今年度から取り組んでいるところでございます。

<委 員>

教える側の方のレベルアップにもっと取り組まなければいけないのではないのでしょうか。以上です。

<委 員>

8ページの「読解力」育成プロジェクトのコグトレ実施率というところで、94.4%とあります。実施してない6%の学級というのは何か、理由があるのでしょうか。

<事務局>

こちらの94.4%というのは、令和6年度の2月末頃に各学校に調査した結果が94.4%ということでした。

毎月、各学校で実施しているかどうか調査をしており、全ての学校で実施はされていますが、この2月末の段階のときに事情があって週1回の実施が出来なかったという報告があったので、94.4%という結果になっています。

<委 員>

私も子どものタブレットでやってみたのですが、脳みそが汗をかくぐらいすごくいい教材だったので、できれば100%をお願いします。

<会 長>

一応令和6年度の実績ということで数字が載っています。年度というのは3月31日

までですのでフォローアップでちゃんとその後にやったという報告を聞いたのであればここは100%全てじゃないでしょうか。資料の作り方でございますが、その点ご留意をください。

<委 員>

26 ページですが、観光入込客数で最終目標は94万9000人に対して、約120万人ということで二重丸になっていまして、非常に頑張っているなと思っています。

理由として道の駅国上が挙げられています。多分燕市でいうと産業観光、企業と連携した観光もあると思うのですが、具体的に取り組まれている内容があれば教えてください。

<事務局>

企業との連携の部分でございますが、燕市では産業観光として観光客向けの工場見学を行っています。産業史料館の中に観光協会があり、そちらを通して問合せがあれば企業と連携して工場見学を実施しています。

<委 員>

市の直接のイベントではないと思いますが、県央地域として工場の祭典の取組みもありますし、地場産業を子どもたちや他の方から知ってもらい意味でも、産業観光って大事だと思うので、できればこういう場で書いてアピールしたら良いのではと思います。

<事務局>

補足で、事前に配付してある資料3にありますが、夏休み企画わくわく社長大作戦ということで、小学生を対象に、企業も参加していただくワークショップも行っています。

<委 員>

今の観光についてですが、もともと燕市って観光業がなかったんですよ。工場の祭典をはじめオープンファクトリーという形で皆さん進めておられると思うのですが、もともと観光業がないので、観光で稼ぐところがなかった。

恐らく初めて稼げたのが道の駅国上で、市外県外からだけでなく、燕市内の若い人たちも、今までお金落とす場所がなかったのがやっと出来たということで集まっています。

産業界にいた人間としては、産業を観光の資源にするその手前に、観光業と飲食サービス業も極めて少ないと思っています。ここのインフラをつくっていかないと、資源があっても使いこなせないなと。つまりお客さんが来ても金を落としてくれないという形になりかねないので、そこを一緒に考えていただければと考えています。

<事務局>

ご意見ありがとうございます。

確かに道の駅国上は、令和4年のリニューアル以降相当な人出がありまして、今市内の観光入り込み客数を伸ばしている1番の要因となっております。

資料1の26ページの令和7年度主要事業にありますが、今年度観光振興プランを策定いたします。訪日外国人も増えていきますし、そういった部分も見据えながら今後の観光戦略をつくっていきなというふうに考えております。

- (2) 地方創生関係交付金活用事業の効果検証について
- (3) SDGs 未来都市計画・自治体 SDGs モデル事業の進捗について

(事務局より、資料2「デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ・地方創生拠点整備タイプ)効果検証」、資料3「SDGs 未来都市・自治体 SDGs モデル事業『ものづくりのまち・燕ならではの「シンカ」プロジェクト』」の説明)

<会 長>

2つの交付金ですが、いずれも設定した指標について、外部有識者の評価を受ける、チェックを受けるということが国からの交付金を受けるための条件になっています。ご質問、ご意見などございましたらお願いします。

<副会長>

地方創生推進タイプということで、かなり積極的に取り組まれて、ほとんどの指標ですばらしい数字が出ているように思いますが、少し気になるのは、3番の関係人口の創出というところの、本市出身の首都圏在住大学生等交流事業「つばめいと」の会員数です。目標値が864に対して徐々に減っている理由として、卒業生に対して首都圏に行く学生が減っているということかも知れませんが、そもそもの18歳人口が減っていることにもよるのかなと考ええると、なかなか目標値に達成しないようにも思われます。

また、県内の大学に燕市から学びに行っているような学生は、この数値だと出てこないとなると、やや何かこう首都圏に重きを置いているようでちょっと違和感があるといえますか。この指標でつばめいとというその組織のことなのか、それとももう少し広く、いろんな大学もしくは専門学校等に行っている学生も取り込める余地があるのでしょうか。

<事務局>

まず「つばめいと」の方ですが、コロナ禍のときに、県外にいる学生に対して、お米を送ろうという活動を燕市で行いました。従前は大体100人ぐらいしかメンバーいなかったのですが、そのときに登録をしていただければお米を送りますということで、名簿管理も含めてやらせてもらったら800人を超えたということです。実際今も活動、参加してもらっているのは、大体2、30人ぐらいの人がコアのメンバーぐらいなのかなと思います。この数字よりは、規模感が小さめなものになっています。

県内の大学に進学した人たちに対しては、もう一つの燕ジョイ活動部という事業をやっています。これは大学生もしくは社会人、18歳から30歳までの若者を対象にした事業でして、穴戸先生、樋口先生の大学の学生さんからも参加していただいております、楽しみながら取り組んでいます。

<副会長>

燕ジョイ活動部も、さっきのサブ指標ではないですが、何かそういう、フォローしているようなことが書かれるといいのかもしれない。

<会 長>

関連して質問させてください。この、「首都圏在住大学生等」とありますね。この「等」に、例えば大阪の学生を含めますか。

<事務局>

含みます。大学生等と言っているのは、例えば専門学校生なども含みますし、首都圏じゃないところの人もいるということで「等」というのを付けさせてもらっています。

<会 長>

引き続きお聞きしますが、この地方創生交付金の No. 4 の指標の 3 つ目、従業員 4 人以下の事業所における新規学卒就職者の就職後 3 年以内の離職率です。

売手市場のため転職等により離職率が増加しているという要因分析が書かれていて、基準値で令和 5 年度が約 47% だったのが令和 6 年度は 56% になっています。一方で目標値は 30% 台だと、結構差があるなという認識を受けるところです。確かに景気がよくなればそれだけ、人の回転が早くなるんだと、離職率が高くても問題はないんだという意見もあるかもしれませんが、燕市の若者が働いて 1 年目、2 年目で、どこかに持ってかれてしまうのは、燕市にとって良いことではありません。

つきましては、売手市場だから仕方ないと見るのか、それとも市内定住を図る観点からも、何らかの策を講じているというものがありませんでしたら、ご教示いただきたい。

<事務局>

離職率についてですが、ここに書いてある数字は、燕市だけで拾い出すというのはなかなか難しいということで、新潟県内全体の数字になっております。

燕市としましては、新規学卒で来ていただいた学生の方々に対して新規学卒者歓迎会を開催していますし、就職して 3 年以内の方向けの研修も実施しております。

またハードの面でも、従業員の方が快適に、職場で仕事をしていただけるように遮熱断熱のための補助事業をやっていますし、トイレ、休憩室ですとか、そういった環境整備の支援というところも今年度新たに実施しております。

ソフト面については先ほど地域振興課長から説明ありましたが、ハード・ソフト両面で実施しているところです。

<委 員>

今さらですが、これ何で従業員 4 人以下の事業所なののでしょうか。燕市に限らず、今、従業員 4 人以下の企業に入る新卒者ってほぼいないですね。分母は極めて小さいと思うので、あんまりいい KPI じゃないのかなというふうに思っています。変えること出来るのか出来ないのか分かりませんけども。

<事務局>

新潟労働局の発表している数字は 4 人以下、5 人から 29 人以下とか、6 段階に分かれています。委員の言われるとおり、4 人以下ってところに就職される方っていうのは大分限られた方と思われますので、指標に関しては企画財政課等々とも協議をしていくことになるのかなと思っております。

<会 長>

資料 2、資料 3 を通じて、他にご意見無いようでしたら、確かに一部もうちょっと頑張らましようという数値はあるとはいえ、ほとんどが目標値を超えている、あるいはそれに近い数値を示しているということから、当審議会といたしましては、この二つの交付金の事業の KPI の達成には有効であったと認めたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

はい、ありがとうございます。それでは、本審議会としましては有効であったというふうに認めたいと思います。

7. その他

(事務局より、令和８年度の会議の予定を説明)

<会 長>

他に全体として何かありますでしょうか。

(発言無し)

特段ないようでしたら、以上をもちまして、令和７年度第１回の燕市総合計画審議会を閉会いたします。どうも皆様ありがとうございました。